

いまガレリアクラシコのお部屋には子供たちに人気の一枚がかけられています。

【カンピトリーノの雌オオカミ】のブロンズ像を写したスクリーンです。狼の乳を二人の幼子が吸っている図像。狼らしくないひょうきんな顔つきのせいか、ガレリアクラシコに掛けられるものの中で人気ベスト5に入っているようです。『古代ローマ帝国』誕生のお話と共に、このブロンズ像を知らないのは、ちょうど日本で『桃太郎』を知らないのと同じに「無知な人」と言われてしまいます。

いずこの国も「国家」の始まりには必ず「神」がいて、超人的な初代「王」が超人的に活躍して「国家」を造り「伝説」となります。

特にこの古代ローマ帝国は、全地球的に唯一無二の『国家』であり、今も全世界の「国」がこれをよくも悪くも手本とします。・・・という、そんなものは西洋の話、古い古い・・・と、また揶揄されそうです。悲しいかなこの日本において、世界と一番乖離しているのが、このローマ帝国に関する“関心”でしょう。

古代ローマとは、ラティウム地方に住むラティウム人が、エトルリア人というこの地方の王を退け、紀元前500年ごろに今のローマの辺りで勢力を広げ「共和制」という形態で「国家」を作ったことに始まります。軍事による周辺の征服を繰り返し、やがて地中海を治めていたカルタゴも滅ぼして地中海の覇権も手に入れ、地中海の全てとブリテン島からアフリカ中東まですべての地域の富をローマの手中に治めます。そして紀元前27年、独裁をしそこね暗殺されたユリウス・カエサルの子オクタウィアヌスが、『尊厳ある者：アウグストゥス』という称号を元老院から贈られてすべての権力を手にする初代「皇帝」となり、その後500年続く国家の礎を築くのです。これが、【Imperium Romanum : (偉大なる) ローマ帝国】(ラテン語)なのです。

彼は、多民族・多宗教・多アイデンティティーのひしめき合う地中海全域をまとめ上げ、人類史上初の平和な地中海を作りました。これはのちに『パクスローマーナ：ローマの平和』とうたわれる稀有な時代です。ローマ帝国崩壊後、地中海には今に至るまで二度と平和はおとずれていません。

古代ローマやアウグストゥスが人類の手本であり続けているのは、この争いが絶えない地中海をまとめ、広大な地域を治め、そこに生きる「ローマ市民」が人種や宗教の違いに関係なく幸せに楽しく暮らせる『政治』を、1000年間もやり切ったからです。地球の歴史にはいくつもの『帝国』といえる強大な国家が存在しますが、【古代ローマ帝国】のような国家は存在しません。

1000年間の国家運営には、いろいろなことがありました。いろいろな皇帝や指導者が出現しました。だからこそ、今も“困った時のローマ帝国”！ 国家や組織運営の問題点は、【古代ローマ】を探せば必ず答えがあると言われるのです。

アウグストゥスはローマのトップに立った時、このローマを偉大な【国家】として内外にアピールする事業を用意周到に行います。その一つが『ローマ建国神話』の確立です。

詩人ウェリギリウスがそれまで語り継がれていた建国神話を【アエネーイス】という物語にします。ここには、古代ギリシャに滅ぼされた、女神ウェヌスの知を引く『トロイア王家』の末裔アエネアースが

ローマにたどりついてトロイア王国を再建し、さらにその末裔に軍神マルスを父として生まれたロムルスが【ROME】を建国したと書いてあります。つまり、古代ローマは、古代ギリシャの模倣ではなくより上に位する国家であるというアピールです。ウェヌスとマルスの子ロムルスは、双子の兄弟レムスと共に生まれてすぐ川に流され雌オオカミに育てられます。その場面が今回の展示です。狼はBC5世紀のエトルリア製と言われますが真偽のほどが疑われています。乳を呑む二人の子供は15世紀ルネサンス時代の物。でも、これがあたかもローマ建国時のBC753年のもののように扱われるほど、ローマの建国神話は大事なのです。

アウグストゥスの頃から、ローマは【永遠の帝国ローマ】と自覚するようになります。古代ギリシャ神殿は、三角屋根をたくさんの柱が支える長方形の建物でした。ローマ神殿は“永遠”を願って円形です。この平和で豊かな世界がいつまでもいつまでも続きますように・・・と。

今回の展示のもう一枚 BC25年にアウグストゥスの右腕のアグリッパにより建てられた【パンテオン】。この永遠への思いを最も表しています。

ローマ観光にいらした方が必ず訪れるパンテオン。入り口はギリシャ式神殿の様相ですが、本体は直径43mの球がすっぽり入る球体です。2000年前のコンクリートのドームは当初ラピスラズリーで塗られ金の星が輝いていたと言います。中央に9mのオルクスという穴が開き、雨が降れば床に丸い跡を残して水は地下に吸い込まれていきます。太陽も月明かりも、その光はこのオルクスからパンテオンの円形の壁や床を這うように差し込んで動いてゆきます。

つまり、ローマ帝国は、自然も宇宙までも手中に治めているという証です。こうしたプレゼンは、ローマが最も得意としたものです。

ローマが【偉大なるローマ帝国】と言われる所以は、ただただ1000年続いた国だからではなく、その言動の一つ一つが、きちんとしたロジカルな哲学に基づいているからです。彼らローマ人は、一切の無駄も、失敗もしない国家だった・・・これこそが、後世、常に手本とされる所以です。

EU統合の直前、ヨーロッパ線のビジネスクラスに乗ると、待合室で古代ローマ関係の本を手にするビジネスマンがたくさんいました。幼稚園児は歴代皇帝の顔を見分ける塗り絵をし、本屋の児童書コーナーにはローマ関係の絵本がずらりと並んでいます。

ふり返ってみると・・・わが日本は、教育や政治やビジネスに、【古代ローマ】は生かされているでしょうか？